

事業所における自己評価結果(公表)

公表 : 令和2年 10月 15日

事業所名 キッズハウスえくぼ つくば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		人数によってパーティションなどでスペースの工夫をしている。	日々の活動に合わせて考えていきたい。
	②	職員の配置数は適切であるか	7		適切な人数を配置している	今後も同様に行なう。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		利用者が分かりやすく集中できる環境を整え、支援提供できるように努めている。また、絵カード等も使い、視覚からの情報も取り入れている。	今後も同様に行なっていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境にねっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		活動前・活動後と清掃し、必要時にも清掃・消毒等、気を付けている。	今後も同様に行なっていく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		ミーティング時に行っている。支援の質を向上できるようにしている。	今後も同様に行なっていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の移行等を把握し、業務改善につなげている	7		評価を受け止めて改善するところはしっかり改善できるように努めている。	しっかりと把握して改善できるように今後も務めていく。
	⑦	事業所向け評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		公開している。	公開していることも周知できるように努めていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1	実施している。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修機会を確保している	7		定期的に行い、職員に必要な情報を学ぶ機会がある。	支援につながる研修が増やせるように努めていきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		計画書を作成し保護者にも確認してもらいながら、年2回作成している。	今後も利用児童の成長につながるように計画書の作成をしていきたいと思います。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		利用児童の状況を知るためにも使用している。	
	⑫	児童発達支援計画書には、特度y発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		計画書には必要な支援内容を明記している	今後も同様に行なっていく。

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		職員間で共有し、日々必要な支援を行っている。	活動プログラムの内容の工夫し、細かな支援もできるように努めている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		みんなで参加できるようなプログラムを職員で考えている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		偏りがないように様々な角度からのプログラムを考えている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1	個々に合わせた支援計画を作成している。	今後も同様に行なっていく。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		支援前にミーティングし、情報の共有、支援の確認をしている。	よりよい支援をするために今後もしっかりと行なう。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		登壇のミーティング時に行っている。が何かあればその都度、相談し解決できるように努めている。	今後も同様に行なっていく。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		毎日、様子等を記録している。	今後も徹底していく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		半期ごとに行い、必要な場合は計画の見直しも検討する。	今後も同様に行なっていく。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		相談支援事業所の依頼に応じて、担当者が参加している。	今後も同様に行なっていく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		必要に応じて連絡を取っている。	今後も同様に行なっていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	依頼があれば、情報の共有ができるように努めている。保護者からの依頼で情報提供を行う場合もある。	今後も同様に行なっていく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2		
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		関係機関との連携はまだ取れていないように感じる。	関係機関との連携が取れるように努めていきたい。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7	今のところ行っていない。	

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等への積極的に参加している	7		責任者が参加し、会議内容等職員間での共有がなされている。	今後も同様に行なっていく。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳や送迎時・面談などで伝え合い、支援に努めている。	今後も同様に行なっていく。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7		相談があれば、相談を含め支援している。	今後も同様に行なっていく。
保護者への説明責任等	③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に説明して、玄関に掲示している。	今後も丁寧な説明を行っていきたい。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		丁寧に説明し、同意を得ている。	今後も保護者に丁寧に説明できるように努めていく。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		相談があったときなど、その都度保護者の不安などを取り除けるように助言・支援を行っている。	今後も同様に行なっていく。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	現在は保護者会等の開催はない。	希望があれば、考えていきたいと思っている。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		対応できるように努めている。	いつでも対応できる事を周知できるように努めていく。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		不定期だが通信を発行している。	定期的に発行できるように努めていく。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	7		研修等も実施している。	今後も同様に行なっていく。
	③9	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		口頭・連絡帳などで伝えられるように配慮している。	今後も同様に行なっていく。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	招待等は実地していない。	環境整備が必要。
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	1	玄関に掲示している。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	定期的に行っている。	今後も同様に行なっていく。
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時に確認し、服薬がある場合は職員間で把握している。	今後も同様に行なっていく。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書の基づく対応がされている	7			
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットを作成し、職員間で共有している。	ヒヤリハットを共有して事故につながらないように努めていく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		定期的に行っている。	今後も同様に行なっていく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	3	拘束はしていないが必要性を考え、説明・書式はある。	しっかりと説明し、保護者の同意を得ていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。